

西東京市教育計画策定のためのアンケート調査 報告書（概要版）

<目次>

I	調査実施概要	1
II	調査結果概要	
1	学校の楽しさ、学校で楽しいところ（小学生・中学生・高校生等）	2
2	学校で困っていること（小学生・中学生）	3
3	通っている塾や習い事（小学生・中学生）	4
4	自分に自信のもてる場所（小学生・中学生）	4
5	相談相手の有無、相談できる相手（小学生・中学生）	5
6	携帯電話やパソコンの利用状況（小学生・中学生・高校生等）	6
7	西東京市の学習環境（一般市民・青少年）	7
8	公民館の利用状況（一般市民・青少年）	8
9	図書館の利用状況（一般市民・青少年）	9
10	小学校・中学校で教えることで重要なこと（一般市民・青少年）	10
11	望ましい小学校・中学校の教師像（一般市民・青少年）	11
	※参考：小学生・中学生	
12	いじめや不登校防止のために必要な対策（一般市民・青少年）	12

I 調査実施概要

1 調査目的

西東京市教育委員会では、平成21年3月に「西東京市教育計画（計画期間：平成21年度～25年度）」を策定し、現在様々な施策に取り組んでいる。現計画が平成25年度で計画期間が終了することに伴い、次期「西東京市教育計画（平成26年度～30年度）」として、新たに策定するものである。

本調査は、次期「西東京市教育計画」の基礎データとして、西東京市民の学習状況や教育に対する意識を把握することを目的に実施した。

2 調査対象

本調査では、西東京市民の実態把握のために、ライフステージに合わせて4種類の調査を実施した。

調査種別	調査対象
①小学生調査	市内の全小学校の4年生及び6年生（各学年1クラス）
②中学生調査	市内の全中学校の2年生（学校規模に応じて各3～4クラス）
③青少年調査	市内に住む15～19歳 [*] の男女400人（住民基本台帳から無作為に抽出） （ [*] 平成24年9月1日現在、平成5年4月2日～平成9年4月1日生まれ）
④一般市民調査	市内に住む20歳以上の男女3,000人（住民基本台帳から無作為に抽出）

3 調査方法及び調査期間

各調査の調査方法は以下の通りである。また各調査共に、平成24年10月5日（金）～10月26日（金）に実施した。

調査種別	調査方法
①小学生調査	小学校を通じて、一斉配布・一斉回収。
②中学生調査	中学校を通じて、一斉配布・一斉回収。
③青少年調査	郵送配布・郵送回収。調査期間中に1回、礼状兼督促状を送付した。
④一般市民調査	郵送配布・郵送回収。調査期間中に1回、礼状兼督促状を送付した。

4 設計数及び回収数

調査種別	設計数	有効回収数	有効回収率
①小学生調査	-	1,166件	-
②中学生調査	-	1,140件	-
③青少年調査	400件	157件	39.3%
④一般市民調査	3,000件	1,443件	48.1%

5 調査結果の見方

【数値の見方】

- 調査結果の数値は、回答率（%：パーセント）で表示している。%の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はnで示している。
- %の数値は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示している。このため各回答の数値の合計が100%とならない場合がある。
- 回答は、単数回答（○は1つだけ）と複数回答（○はいくつでも）の選択式の回答と、具体的に数値を回答する場合がある。複数回答設問の場合は、その回答割合（%）の合計は100%を超えることがある。
- 図表やコメント部分での回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な回答の選択肢は、資料編の調査票を参照のこと。

Ⅱ 調査結果概要

1 学校の楽しさ、学校で楽しいところ（小学生・中学生・高校生等）

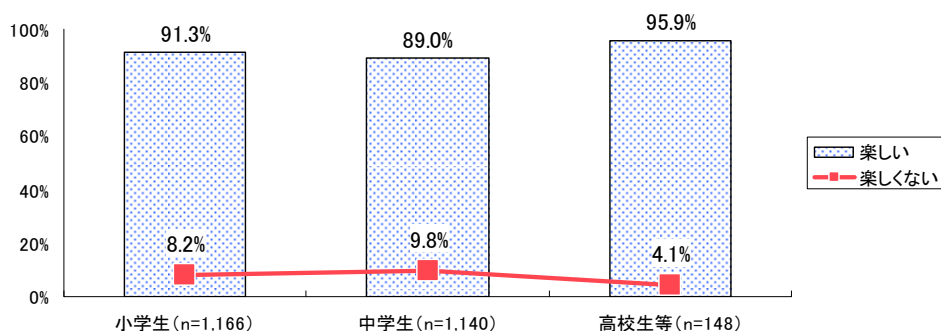
（詳細は、調査報告書の下記ページを参照

小学生：P25, 27 中学生：P59, 60 高校生等：P89）

学校を楽しいと思う児童・生徒の割合は、小学生 91.3%、中学生 89.0%、高校生等 95.9%となっており、9割前後で推移している。

学校で楽しいところは、「休み時間」、「友だちがいること」、「遠足や運動会などの行事」、「クラブ活動・部活動等」が上位にあげられている。「休み時間」と回答する割合は学年が上がるにつれて低くなり、「友だちがいること」は学年が上がるにつれて高くなっている。

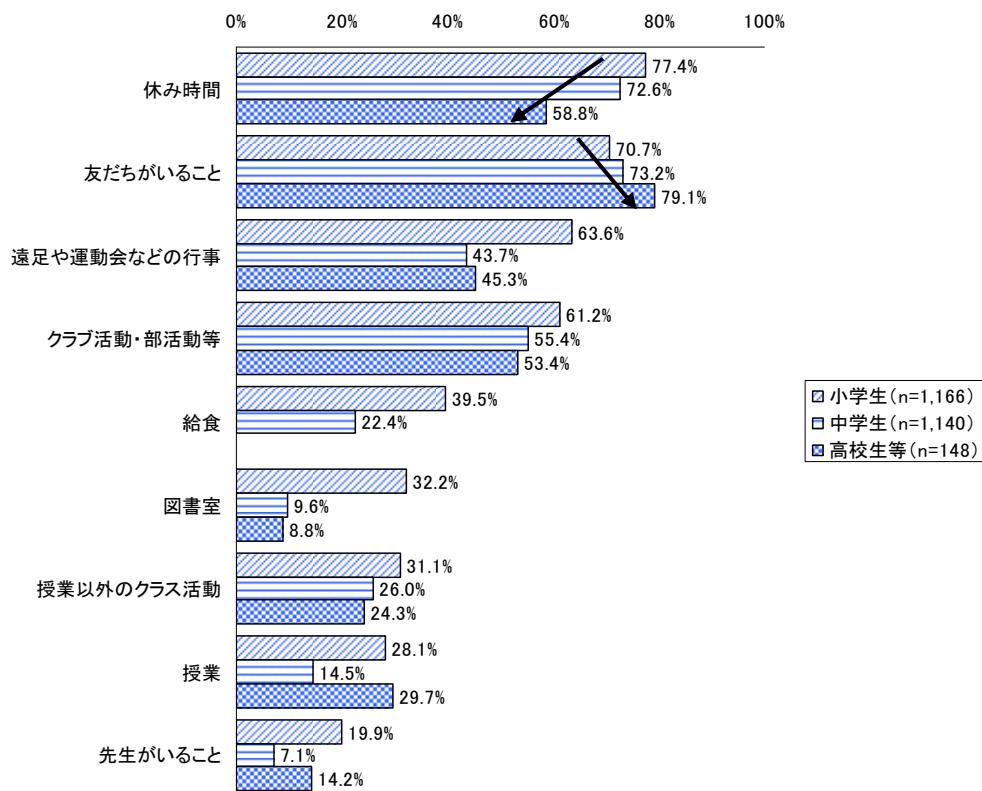
【学校の楽しさ】



※楽しい＝「とても楽しい」＋「まあまあ楽しい」、楽しくない＝「楽しくない」＋「あまり楽しくない」

※高校生等には、「高校生」「短期大学生・高等専門学校生」「専門学校生」「大学生」が含まれる。

【学校で楽しいところ】



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% とならない。

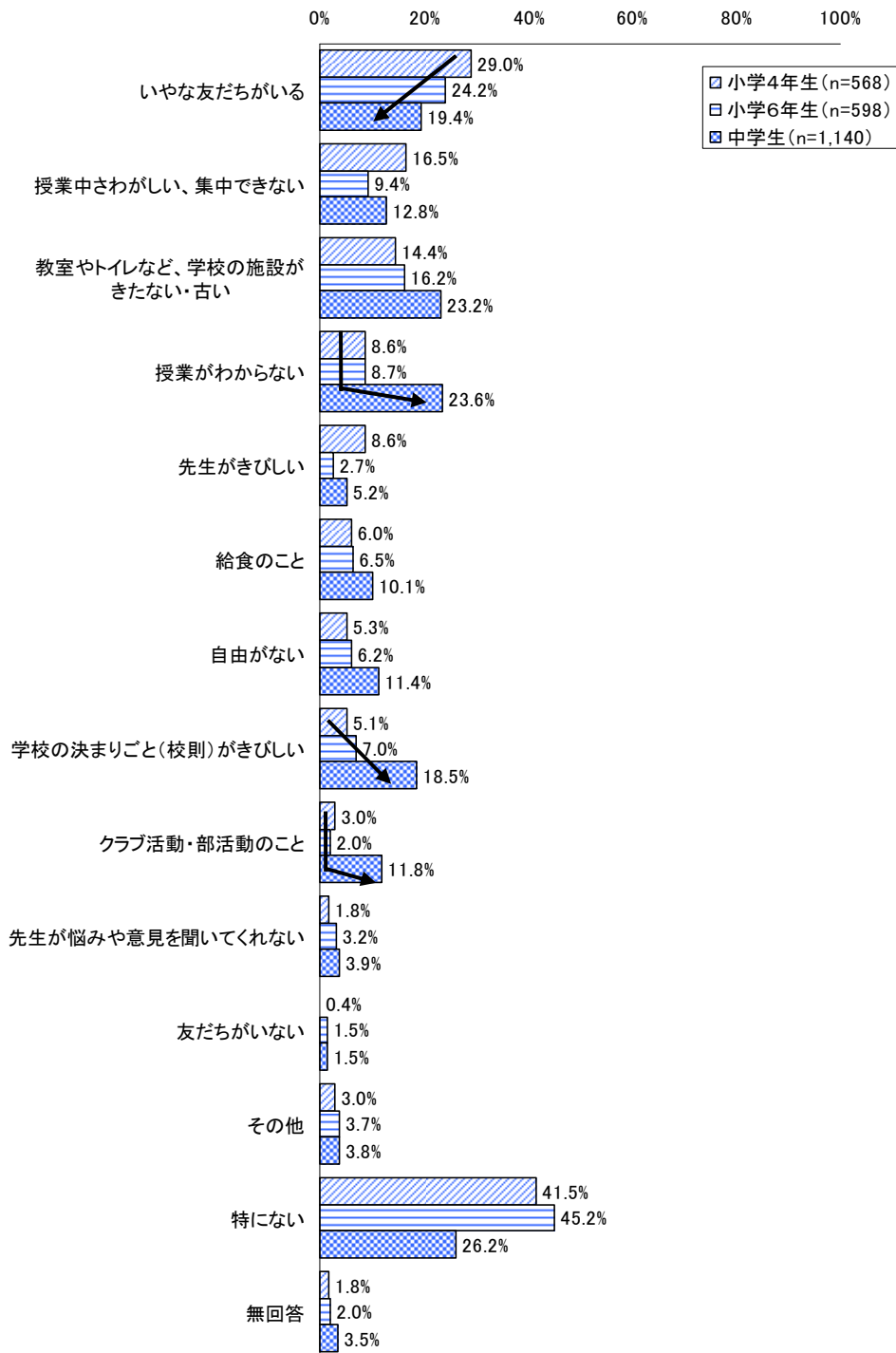
※「給食」は小学生及び中学生調査のみの選択肢である。

2 学校で困っていること（小学生・中学生）

（詳細は、調査報告書 P28, 61 参照）

学校で困っていることが「特にない」のは、小学4年生 41.5%、小学6年生 45.2%、中学生 26.2% となっており、小学生の約半数、中学生の約7割は何らか困っていることがあると回答している。

困っていることの上位には、「いやな友だちがいる」、「授業がさわがしい、集中できない」、「教室やトイレなど、学校の施設がきたない・古い」、「授業がわからない」等があげられている。「いやな友だちがいる」と回答する割合は学年が上がるにつれて低くなり、中学生になると「授業がわからない」、「学校の決まりごと（校則）がきびしい」、「クラブ活動・部活動のこと」の割合が高くなっている。



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

3 通っている塾や習い事（小学生・中学生）

（詳細は、調査報告書 P32, 65 参照）

小学生の約9割、中学生の約8割は何らかの習い事に通っている。小学4年生では「スポーツチームやクラブ」が最も多いが、学年が上がるにつれて割合は低下し、代わって「学習塾」に通う割合が高くなっていく。中学生では59.7%が「学習塾」に通っていると回答している。

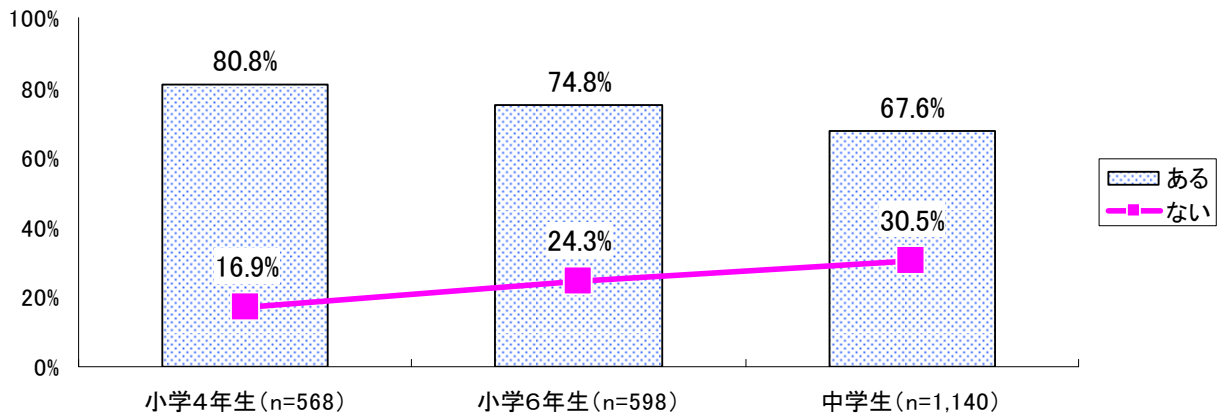
	小学4年生(n=568)	小学6年生(n=598)	中学生(n=1,140)
習い事をしている割合	88.7%	90.8%	77.2%
学年別 通っている割合の高い習い事 上位5つ			
1	スポーツチームやクラブ 54.2%	学習塾 51.5%	学習塾 59.7%
2	学習塾 34.9%	スポーツチームやクラブ 45.3%	スポーツチームやクラブ 13.9%
3	音楽 22.4%	音楽 17.2%	音楽 12.9%
4	そろばんや習字 14.8%	英会話 16.4%	ダンス 7.6%
5	英会話 11.1%	そろばんや習字 12.0%	英会話 6.3%

※「習い事をしている割合」は、「特に通っているものはない」と「無回答」を除いた割合。
 ※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

4 自分に自信のもてるどころ（小学生・中学生）

（詳細は、調査報告書 P47, 80 参照）

自分に自信のもてるどころが「ある」と回答する割合は、学年が上がるにつれて低下しており、中学生では自分に自信のもてるどころが「ない」生徒が3割を占める。

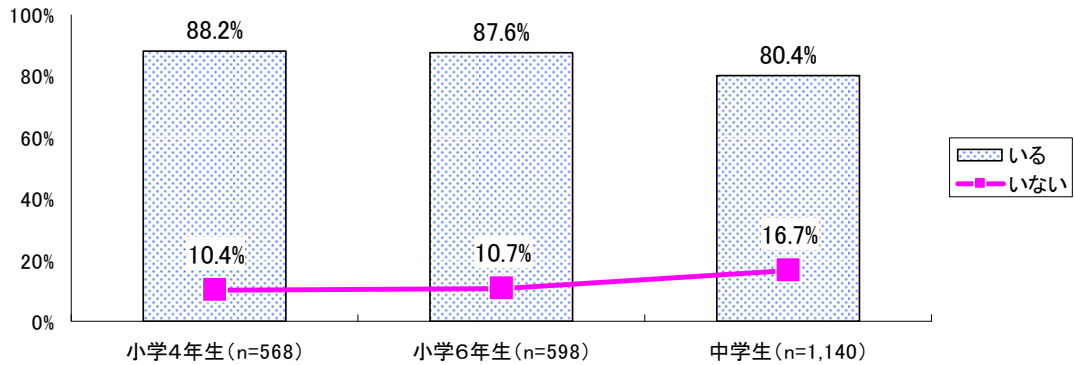


※「ある」=「あると思う」+「どちらかといえばあると思う」
 「ない」=「ないと思う」+「どちらかといえばないと思う」

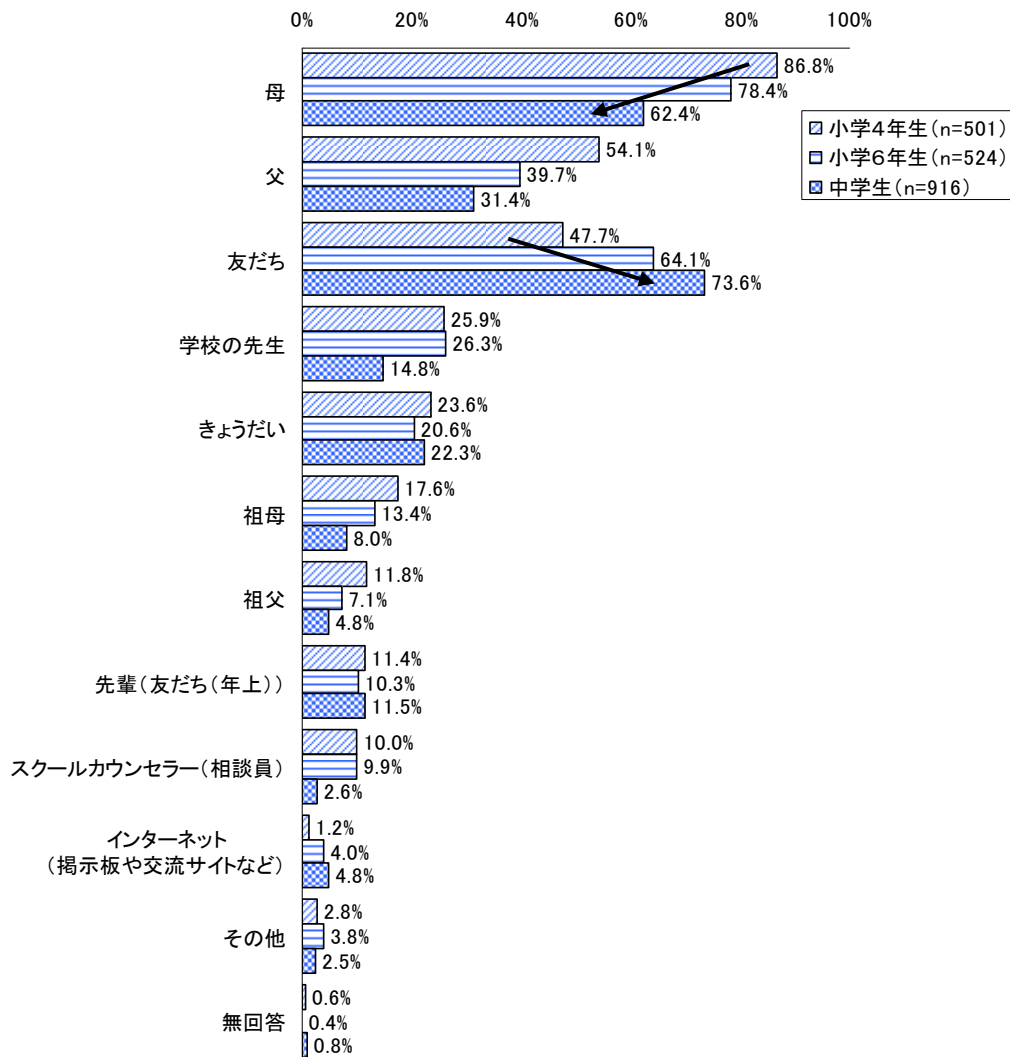
5 相談相手の有無、相談できる相手（小学生・中学生）

（詳細は、調査報告書 P45, 46, 78, 79 参照）

小学生の約9割は、いやなことやつらいことがあったときに相談できる人が「いる」と回答している。一方、中学生では相談できる人が「いる」割合は80.4%となっており、小学生よりも低い割合である。相談相手としては「母」をあげる意見が多いが、学年が上がるにつれて「友だち」の割合が高くなっていく。また、「インターネット（掲示板や交流サイト）」に相談するという児童・生徒も、低い割合ではあるが存在する。



相談できる相手



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

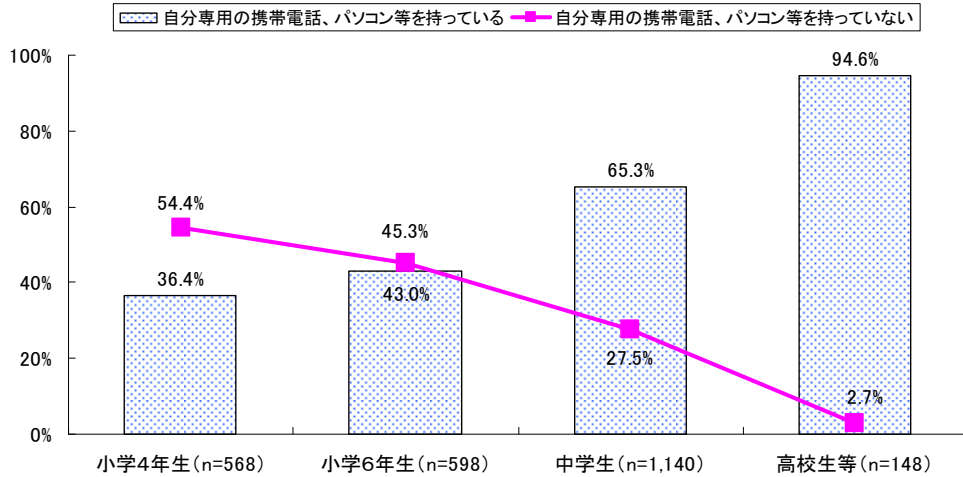
6 携帯電話やパソコンの利用状況（小学生・中学生・高校生等）

（詳細は、調査報告書の下記ページを参照

小学生：P40, 41 中学生：P73, 74 高校生等：P105）

自分専用の携帯電話またはパソコン等を持っている割合は、小学生で4割前後、中学生では65.3%、高校生等では94.6%となっている。

1日の使用時間は、平日よりも休日の方が長く、学年が上がるにつれても長くなっていく傾向がある。

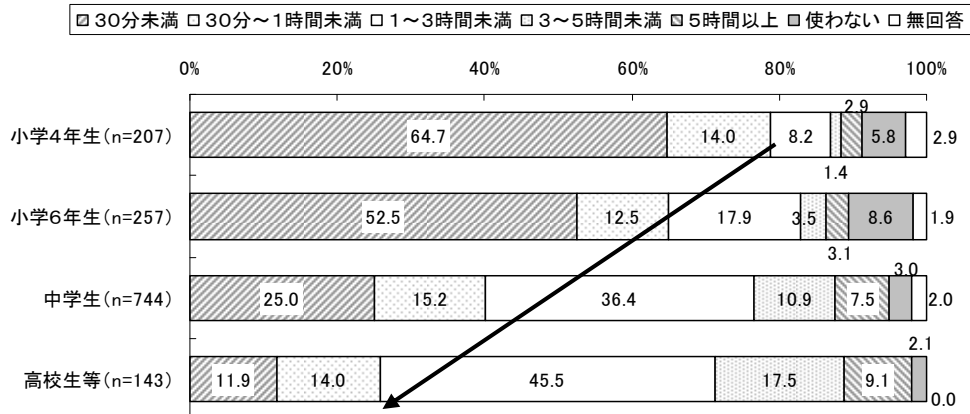


※高校生等には、「高校生」「短期大学生・高等専門学校生」「専門学校生」「大学生」が含まれる。

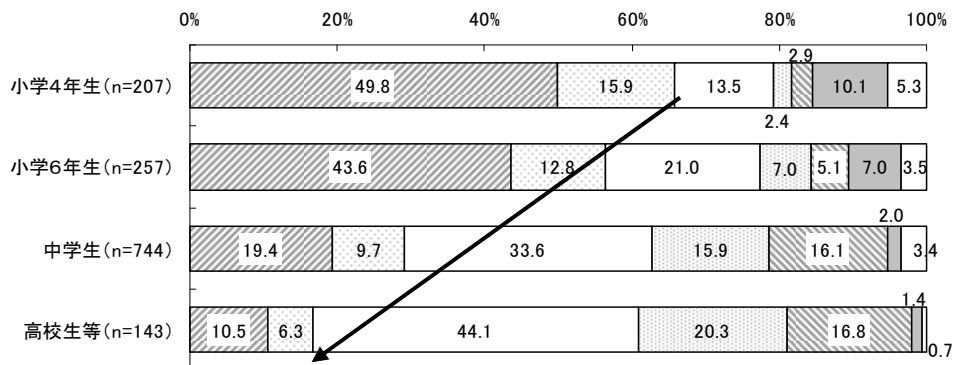
※高校生等では、携帯電話とパソコンのそれぞれについて所持状況を聴取している。

ここでは、自分専用の携帯電話またはパソコンを所持している割合を示す。

平日の使用時間



休日の使用時間



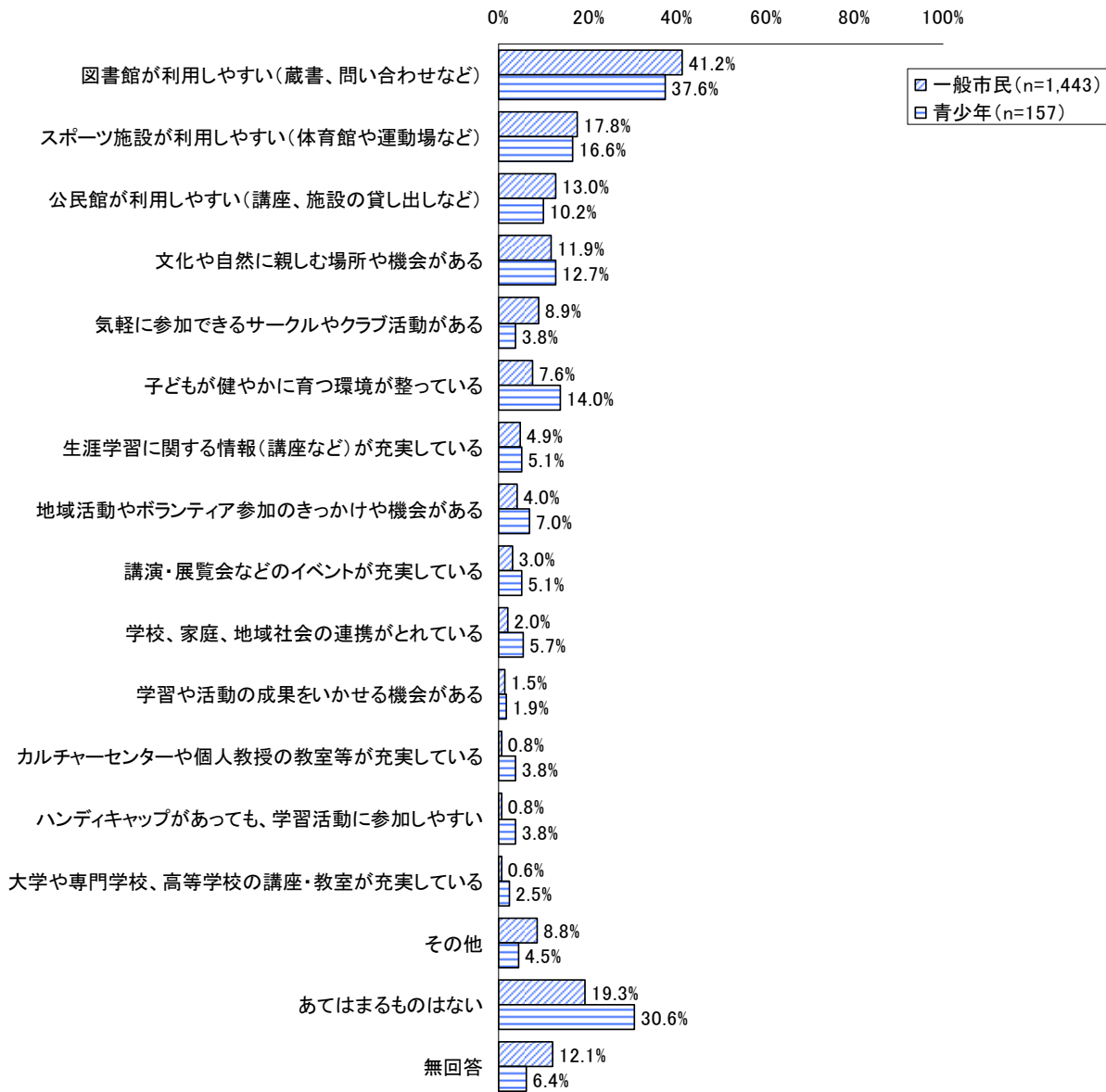
※小中学生の使用時間は、自分専用の携帯電話またはパソコン等を持っている者を対象に集計。

高校生等では、自分専用かどうかを問わず、携帯電話またはパソコン等を持っている者を対象に集計。

7 西東京市の学習環境（一般市民・青少年）

（詳細は、調査報告書 P95, 118 参照）

西東京市の学習環境としては、「図書館が利用しやすい（蔵書、問い合わせなど）」という意見が約 4 割と最も多い。次いで「スポーツ施設が利用しやすい（体育館や運動場など）」、「公民館が利用しやすい（講座、施設の貸し出しなど）」、「文化や自然に親しむ場所や機会がある」等が続く。



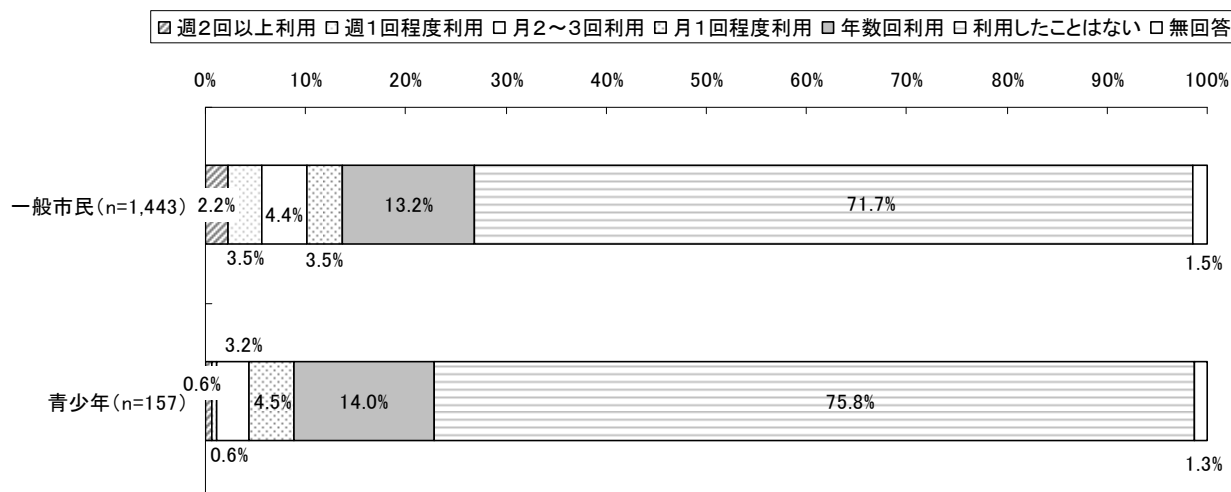
※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は 100%とならない。

※選択肢は一部簡略化して記載している。

8 公民館の利用状況（一般市民・青少年）

（詳細は、調査報告書 P96, 119, 120 参照）

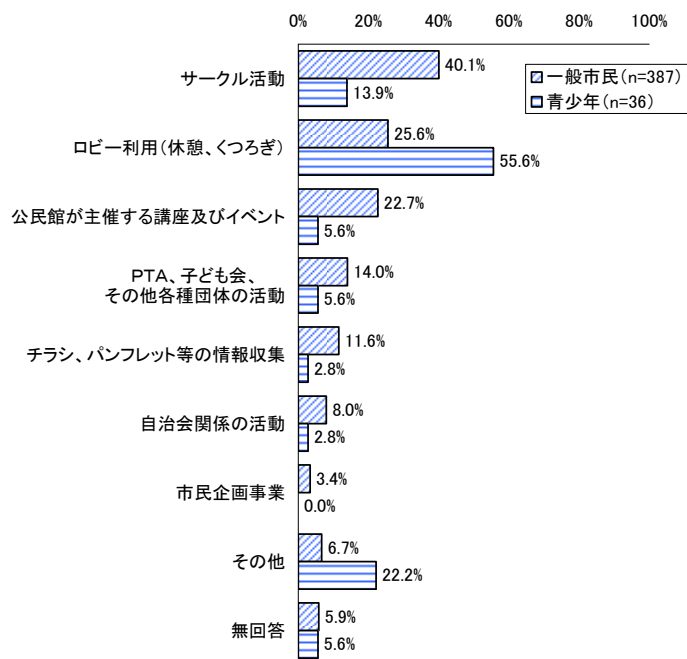
一般市民の 26.8%、青少年の 22.9%は、この 1 年間に公民館を利用したことがあると回答している。利用者の主な目的は「サークル活動」、「ロビー利用（休憩、くつろぎ）」等であり、未利用者は「時間がないから」を利用しない理由にあげている。



※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」「週4～5回利用」「週2～3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記している。

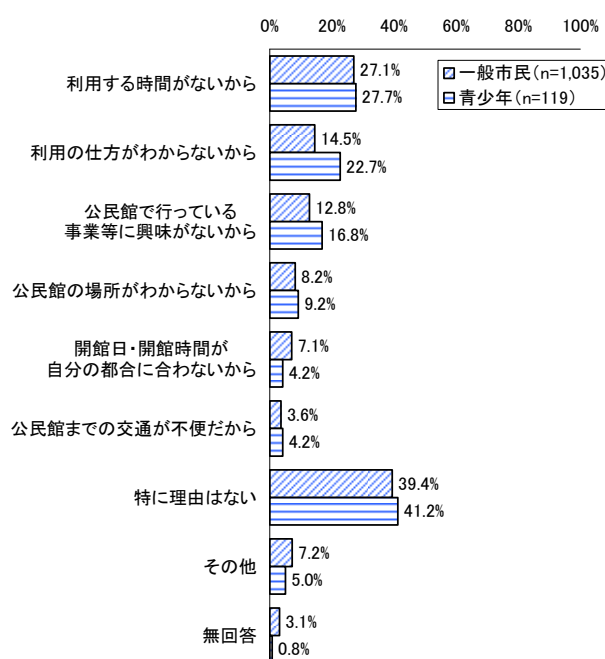
主な利用目的

※公民館利用者を対象に集計



利用しない理由

※公民館未利用者を対象に集計

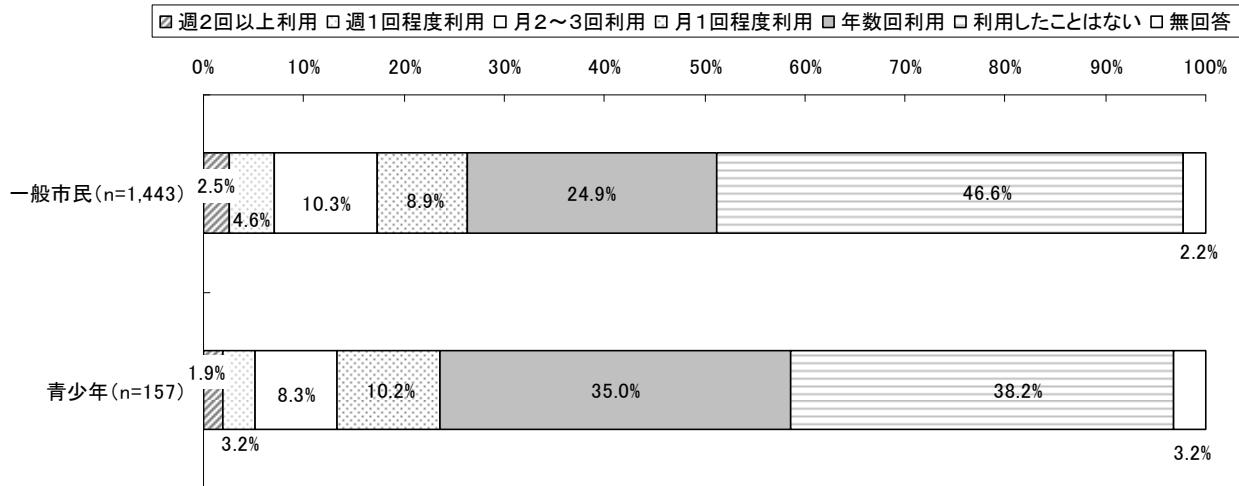


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

9 図書館の利用状況（一般市民・青少年）

（詳細は、調査報告書 P97, 98, 122, 123 参照）

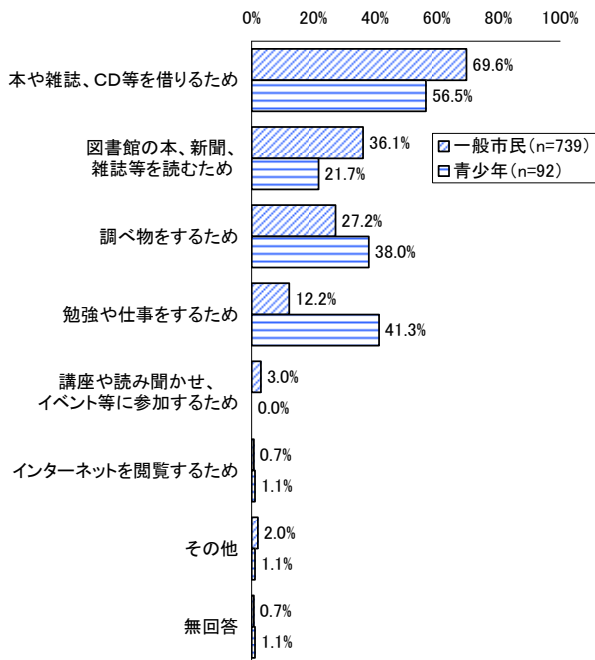
一般市民の 51.2%、青少年の 58.6%は、この 1 年間に図書館を利用したことがあると回答している。利用者の主な目的は「本や雑誌、CD等を借りるため」、「図書館の本、新聞、雑誌等を読むため」等のほか、青少年は「調べ物をするため」、「勉強や仕事をするため」と回答する割合が高い。未利用者は「時間がないから」、「本や雑誌は自分で買うようにしているから」を利用しない理由にあげている。



※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」「週4～5回利用」「週2～3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記している。

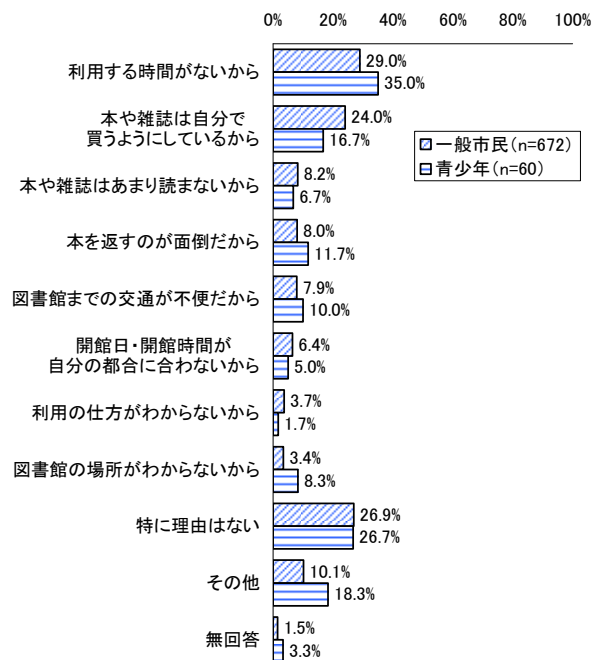
主な利用目的

※図書館利用者を対象に集計



利用しない理由

※図書館未利用者を対象に集計

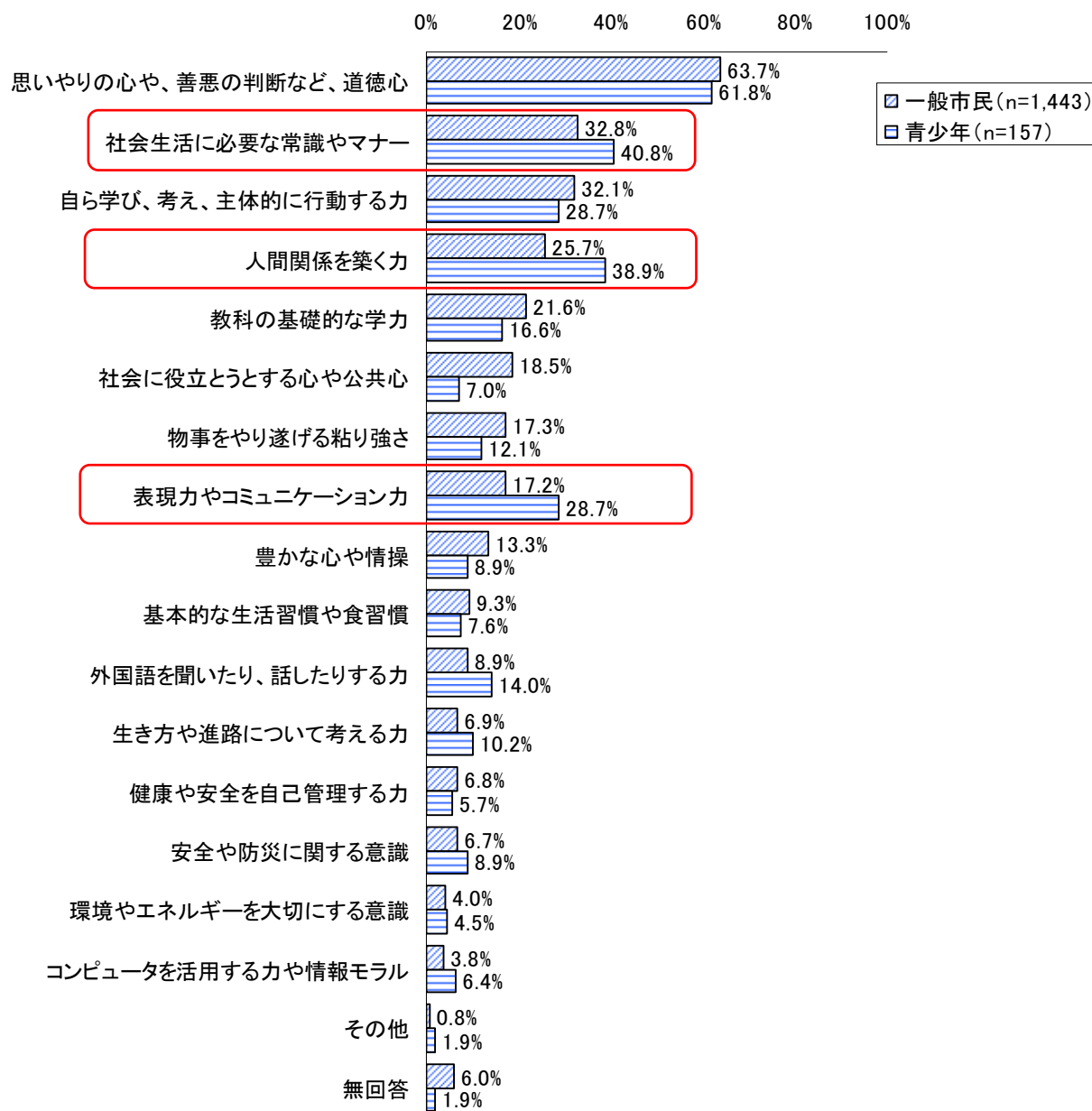


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

10 小学校・中学校で教えることで重要なこと（一般市民・青少年）

（詳細は、調査報告書 P103, 132 参照）

小学校・中学校で教えることで重要なことは、「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」、「社会生活に必要な常識やマナー」、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」、「人間関係を築く力」等があげられている。一般市民と比較すると、青少年は「社会生活に必要な常識やマナー」、「人間関係を築く力」、「表現力やコミュニケーション力」等が重要であるという意見が多い。



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

1.1 望ましい小学校・中学校の教師像（一般市民・青少年）（参考：小学生・中学生）

（詳細は、調査報告書の下記ページを参照

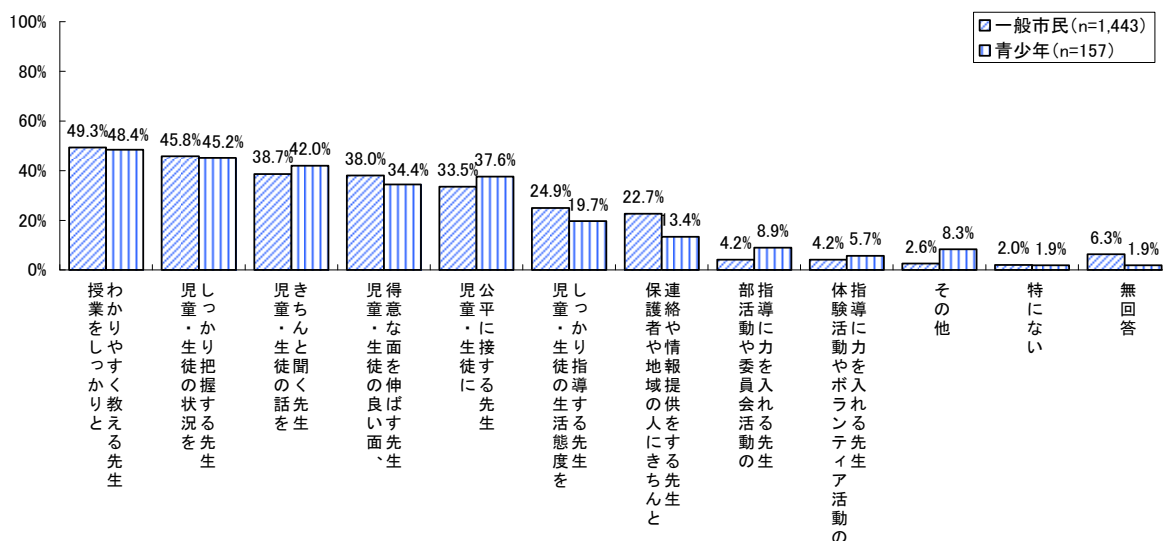
小学生：P30 中学生：P63 青少年：P104 一般市民：P133）

望ましい小学校・中学校の教師像として、一般市民及び青少年は「授業をしっかりとわかりやすく教える先生」、「児童・生徒の状況をしっかりと把握する先生」、「児童・生徒の話をきちんと聞く先生」、「児童・生徒の良い面、得意な面を伸ばす先生」等をあげている。一般市民に比べ、青少年は「児童・生徒の話をきちんと聞く先生」、「児童・生徒に公平に接する先生」と回答する割合がやや高い。

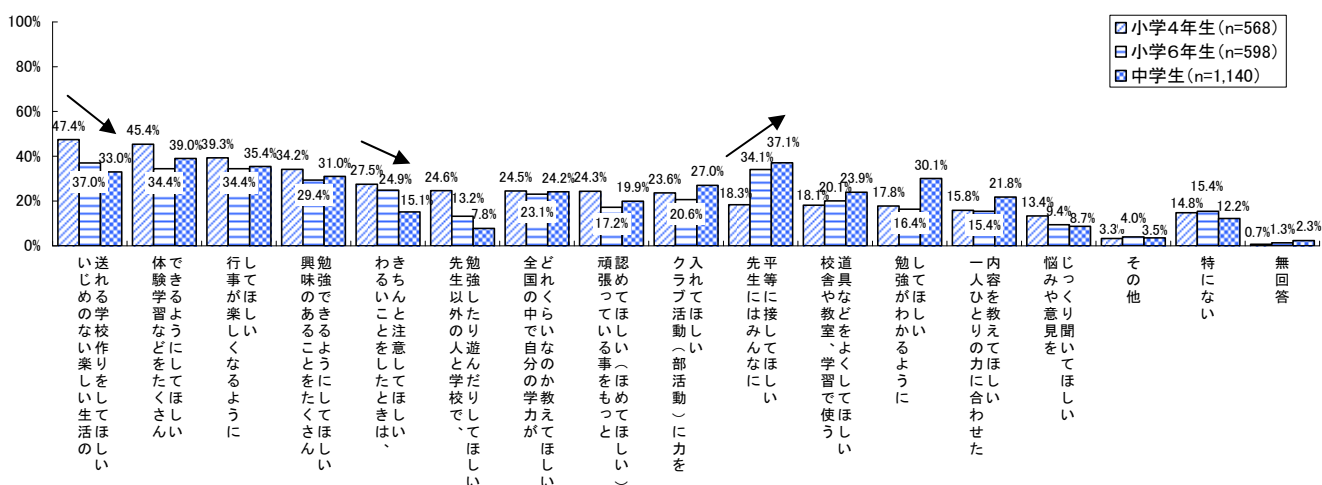
また小中学生は、「いじめのない楽しい生活の送れる学校づくりをしてほしい」、「体験学習などをたくさんできるようにしてほしい」、「行事が楽しくなるようにしてほしい」、「興味のあることをたくさん勉強できるようにしてほしい」等を学校や先生に期待している。

学年による違いをみると、「いじめのない楽しい生活の送れる学校づくりをしてほしい」、「悪いことをしたときは、きちんと注意してほしい」は小学4年生で最も高く、学年が上がるにつれて割合が低くなっている。一方、「先生にはみんなに平等に接してほしい」は学年が上がるにつれて高い割合となっている。

【一般市民・青少年／望ましい小学校・中学校の教師像】



【参考：小学生・中学生／学校や先生に望むこと】

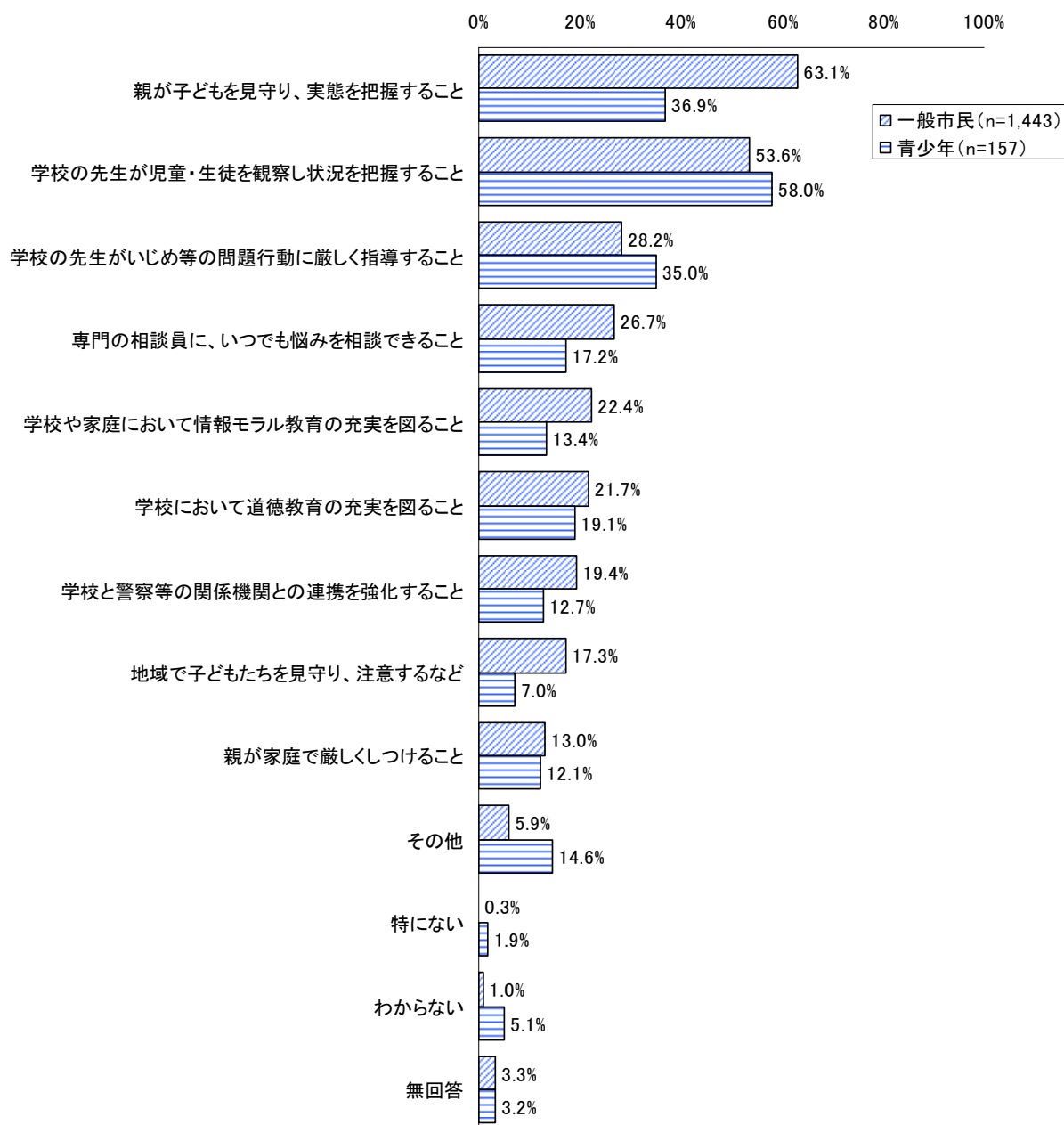


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※選択肢は一部簡略化して記載している。

12 いじめや不登校防止のために必要な対策（一般市民・青少年）

（詳細は、調査報告書 P107, 136 参照）

いじめや不登校防止のために必要なこととして、一般市民は「親が子どもを見守り、実態を把握すること」と回答する割合が最も高い。一方、青少年は「学校の先生が児童・生徒を観察し、状況を把握すること」、「学校の先生がいじめ等の問題行動に厳しく指導すること」と回答する割合が高く、学校内で教師が対策にあたることが重要だととらえている。



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※選択肢は一部簡略化して記載している。

**西東京市教育計画策定のためのアンケート調査
報告書（概要版）**

発行日 平成 25 年 3 月
発 行 西東京市教育委員会 教育部教育企画課
〒202-8555 西東京市中町 1-5-1
電 話 042(438)4070（直通）